

自然保護 生命への思いやりを



法人
日本鳥類保護連盟
サントリーグループ会社

●この広告は、財団法人日本鳥類保護連盟が指導を得て、
サントリーグループ会社がリーフレットとして制作しています。



まず、身近な自然に親しもう

皆さんが住むところ、そこはもつ、自然です。四季の変化、草のにおい、雪のようす、陽さし、土の肌ざわり。公園、道ばた、街路樹。小さな生き物、大きな生き物。虫、鳥、けもの、そして花。どこでも目につく野生の生きものたちやなかなか見つけられないものたち。みんな、自然の仲間です。さあ、身近なところを歩いてみましょう。自然にふれながら、自然保護ということを考えてみましょう。

それは、自然に対する三つの心がけです。第一は、「自然に親しむ」。第二は、「自然を知る」。第三が「自然を大切にする」ことです。親しむことで、自然に目を向け、自然を知ることで、愛情を育て、そこではじめて自然を大切にしようという積極的な気持が生まれてくるのではないかと、もうひとつはあります。

地域の自然を知るために、やはり自然と人との間にわかり合いを勉強することです。この二つは別々ではありません。地域の自然を知るために、やはり自然と人とのあり方を勉強しなければなりませんし、いっぱい、本や勉強会などを学びながら、実地の観察や見学もしなければなりません。

自然の変化にする・どうなる?

ヒトも、自然の一員である以上、自然のしくみの中で、自然をこわすことなく上手に利用してこそ、ヒトの生活も健康に安全に保たれていくはずです。だから、自然を大切にすることは、ヒトをふくめたすべての生命を大切にすることです。

また、自然を観察するには、ヒト以外の自然をかたちづくっているメンバーの生活と役割りを知るために、同時に、ヒトの生活の基盤をたしかめる作業であるといえるでしょう。ヒトの生活に大きなつながりを持つ生き物たちに何か変化が起これば、いずれヒト自身にも何らかの影響がある——この見方をすれば、私たちは自然の変化にもっと敏感にならなくてはなりません。環境の変化をどんな生き物が、生命を犠牲にして私たちに知らせてくれるかを、観察のつみかさねと、おたがいの勉強の中でとらえていきましょう。

そして私たちは、環境変化のパロメーターとしての生き物の「命の尊さ、重さ、深さ」に思いを寄せて、彼らを見つめていたいと思います。——月、あなたの周囲の冬鳥たちは、どんな暮らしをしていますか。さあ、身近なところを歩いてみましょう。冬鳥、陽さし。皆さんが住むところは、良い自然ですか。

●トリからのメッセージ(あなたにできる自然保護・ほか)のパンフレットを、おわけしています。ご希望の方は

代金100円+手数料140円+計240円分を切手でどうぞ。〒103-9110 東京都日本橋区内私書箱231号 サントリー会社 愛鳥キャンペーン係

●売上利益金は日本の野鳥保護のために寄附されます。**トリからのメッセージ 68**